

2021

和歌山大学 留学生による
第13回 作文コンクール

主催 和歌山大学 研究グローバル化推進機構 国際連携部門

第13回作文コンクールに寄せて

審査委員長 長友 文子

研究グローバル化推進機構国際連携部門では、旧 IER センター、国際学生部門で行われてきた作文コンクールを、引き続き今年も行いました。作文コンクールの趣旨は、「留学生が見た、感じた、体験した和歌山・和歌山大学」、「和歌山での留学生活から考えた日本語の社会」などを、母語と日本語で書き、世界に紹介しようというものです。第13回目を迎えた今回は、中国、インドネシア、マレーシア、台湾、カザフスタン、ベトナム、イランの7つの地域からの留学生14名の応募がありました。審査の結果は次の通りです。

◎最優秀賞：

- ・交換留学生（中国）畢 晨さん「松尾芭蕉との出会い」

◎優秀賞：

- ・日本語・日本文化研修留学生（インドネシア）ジョヴァンカ アリフ サプトラさん「「ああ～」と言うほどに」
- ・経済学部2年（インドネシア）ファジャル スチヤディさん「人間性を守る」

◎審査員賞：

- ・経済学部2年（マレーシア）ヌルル イザ ビンティ カイルル アンワルさん「可愛い電車」
- ・観光学部1年（マレーシア）サラ フダ ビンティ ノール アザムさん「四季の美しさ」

◎特別賞：

- ・経済学部3年（台湾）林 丞緯さん「私の留学生活」
- ・経済学部2年（マレーシア）シティ アミラ アマニ ビンティ アリアスさん「日本で暮らすムスリムとしてのチャレンジ」
- ・経済学部1年（マレーシア）シティ ノラジュマル ビンティ アズミさん「習慣とマナー」
- ・経済学部2年（マレーシア）アダム バジル ビン アハマド カマルさん「田舎なの？」

◎努力賞：

- ・日本語・日本文化研修留学生（カザフスタン）タジバエワ ジャニヤさん「理想と現実」
- ・日本語・日本文化研修留学生（インドネシア）エヴリリヤさん「素敵なところ、和歌山への思い」
- ・日本語・日本文化研修留学生（ベトナム）マー ティエット フーンさん「記憶に残る和歌山」
- ・日本語・日本文化研修留学生（イラン）サデギ ファテメさん「私が見た東京と大阪以外の日本」
- ・経済学部2年（中国）王 新慧さん「新型コロナウイルス下の和歌山」

最優秀賞に輝いた中国の畢晨さんの作文には、松尾芭蕉の作品との3回目の出会いを通して、畢さんの芭蕉像が深まってゆき、孤独な旅人というイメージに到達したことが、的確な日本語で書かれています。「人生も孤独な旅ではないかと思われます」という表現から、畢さんの作品に対する読みの深さと畢さんの成長もうかがえます。表現力も豊かで、全体的にまとまっており、いかにも大学生らしい質の高い作文でした。

優秀賞には、インドネシアのジョヴァンカさんとファジャルさんが選ばれました。

まず、ジョヴァンカさんの「「ああ～」と言うほどに」は、タイトルから読む人をひきつけます。日本に来ることができたうれしさを上手に表現しています。また、日本文化体験を「異文化冒険」と表現し、初めての銭湯体験を面白く、生き生きと描写しています。アニメと同じ体験をした喜びが私たちにも伝わってきます。楽しく異文化を体験しているジョヴァンカさんが目に見えるようです。素晴らしい作文でした。

二人目のファジャルさんの「人間性を守る」は、無人野菜売り場をテーマとして取り上げ、ファジャルさんにとって「異常な」光景に対する驚きとそこから学んだことが上手に書かれています。AIが進む現代、他人を信頼し、人間性を守ることの大切さの指摘には、考えさせられるものがありました。ファジャルさんが地域の方との交流を通して、人との信頼関係を大切にしていることがわかる興味深い内容の作文でした。

審査員賞を受賞されたマレーシアのイザさんの作文は、和歌山で珍しい電車に出会った楽しさがよく表されていました。これを読んだ人は、和歌山に来て一度は乗ってみたいという気持ちになるでしょう。また、サラさんはまだ日本に来ていませんが、マレーシアで日本の四季に思いを馳せながら、気持ちを込めて書かれており、早く日本に留学したいという気持ちを上手に表現した作文でした。

ひとつひとつ取り上げることはできませんが、特別賞、努力賞のみなさんの作文も、全てが素晴らしい作文でした。コロナで行動が制限された中で、自分が体験したこと、学んだことなど、上手にまとめ表現されていました。今回は、みなさん大変質の高い作文でした。

みなさんの作文は、部門のHPに掲載されます。和歌山大学への留学を考えている人、和歌山や和歌山大学に興味を持っている人が、海外からアクセスして、みなさんの作文を読んでもくれるでしょう。

コンクールに参加されたみなさんも、またいつかこの作文冊子を手に取り、和歌山での留学生生活を思い出してください。和歌山での楽しかったことはもちろん、新型コロナ禍で残念だったことや、その他辛かったことも含めて、留学生生活での経験を将来に生かし、帰国されてからも頑張ってください。そして、和歌山で共に学び共に生活した留学生の仲間をはじめ、いろんな人々との出会いと交流を、今後とも大事にしてください。

今回も審査員を務めてくださった永野先生、中野先生、嶋本先生、藤山先生、コンクールのお世話をいただいた松下先生、そして部門職員の方々にお礼を申し上げます。

そして、最後になりましたが、お忙しい中、毎年、表彰をしてくださる学長に、留学生とともに、心よりお礼申し上げます。

第13回 作文コンクール

テーマ：留学生から見た和歌山

■最優秀賞

ヒツ シン

畢 晨

教育学部 交換留学生（中国）

「松尾芭蕉との出会い」

1

■優秀賞

ジョヴァンカ アリフ サプトラ

JOVANKA ALIF SAPUTRA

日本語・日本文化研修留学生（インドネシア）

「「あぁ～」と言うほどに」

4

ファジャル スチヤディ

FAJAR SETYADI

経済学部経済学科 2年（インドネシア）

「人間性を守る」

7

■審査員賞

ヌルル イザ ビンティ カイルル アンワル

NURUL IZZAH BINTI KHAIRUL ANWAR

経済学部経済学科 2年（マレーシア）

「可愛い電車」

10

サラ フダ ビンティ ノール アザム

SARAH HUDA BINTI NOR AZAM

観光学部観光学科 1年（マレーシア）

「四季の美しさ」

13

■特別賞

リン チェンウェイ

林 丞緯

経済学部経済学科 4年（台湾）

「私の留学生活」

16

シティ アミラ アamani ビンティ アリアス

SITI AMIERA AMANI BINTI ALIAS

経済学部経済学科 2年（マレーシア）

「日本で暮らすムスリムとしてのチャレンジ」

19

シティ ノラジュマル ビンティ アズミ

SITI NORAJMAL BINTI AZMI

経済学部経済学科 1年（マレーシア）

「習慣とマナー」

22

アダム バジル ビン アハマド カマル

ADAM BAZIL BIN AHMAD KAMAL

経済学部経済学科 2年（マレーシア）

「田舎なの？」

25

■ 努力賞

タジバエワ ジャニヤ

TAZHIBAYEVA ZHANIYA 28
日本語・日本文化研修留学生（カザフスタン）
「理想と現実」

エヴリリヤ

EVRYLLIYA 31
日本語・日本文化研修留学生（インドネシア）
「素敵なところ、和歌山への思い」

マー ティエット フーン

MA TIET PHUONG 34
日本語・日本文化研修留学生（ベトナム）
「記憶に残る和歌山」

サデギ ファテメ

SADEGHI FATEME 37
日本語・日本文化研修留学生（イラン）
「私が見た東京と大阪以外の日本」

オウ シンケイ

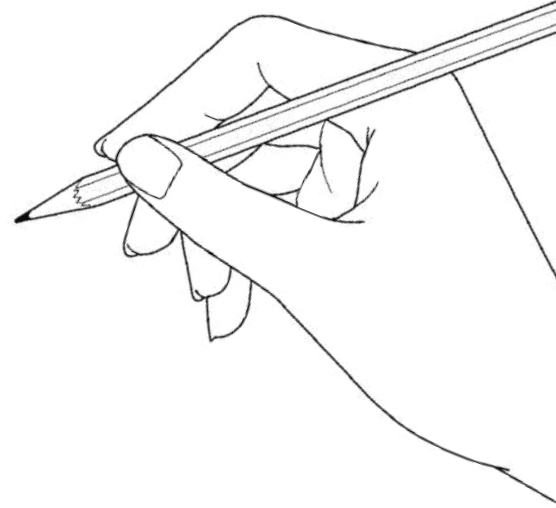
王 新慧 40
経済学部経済学科 2年（中国）
「新型コロナウイルス下の和歌山」

■ 審査員

国立大学法人和歌山大学 国際連携部門長（審査委員長）	長友 文子
国立大学法人和歌山大学 名誉教授	永野 基綱
国立大学法人和歌山大学 国際連携部門 副部門長	藤山 一郎
国立大学法人和歌山大学 国際連携部門 特任助教	松下 恵子
国立大学法人和歌山大学 日本語非常勤講師	中野 律
国立大学法人和歌山大学 日本語非常勤講師	嶋本 圭子

2021

和歌山大学 留学生による
第13回 作文コンクール



松尾芭蕉との出会い

ヒツ シン

教育学部 交換留学生 中国

松尾芭蕉という名前に初めて出会ったのは、自国の大学の日本概況の授業でのことでした。授業では私は江戸時代の内容の発表を担当し、文学の部分では松尾芭蕉と彼の代表作である、「奥の細道」を簡単に紹介しましたが、具体的な内容はよく理解しておらず、授業が終わった後は、松尾芭蕉や俳句のことを忘れてしまいました。

松尾芭蕉との再会は、本屋の日本文学に分類された棚で、小さな本を見つけたことでした。『但愿呼我的名为旅人：松尾芭蕉俳句300』という本で、タイトルは「旅人と我が名呼ばれん」という意味です。この本は芭蕉の俳句を300句選んで中国語に翻訳して、解説もついています。私は一目でそのタイトルに惹かれました。なぜこの本に詩のような名前をつけたのか。それを買って、家に帰ってすぐに読み始めました。この本の翻訳者は陳黎と張芬齡で、台湾の有名な詩の翻訳家として知られています。彼らは、この本の翻訳にあたって、俳句の言葉の意味を単純に中国語に置き換えるのではなく、芭蕉の俳句の持っている雰囲気や心境を伝えています。そして、従来翻訳者のように俳句を漢詩の格式に訳すのではなく、短く巧みな俳句の特徴を残すように工夫しています。読んでみると、俳句の巧みに気づいて、短い音だけで季節や自分の感情などを表現するのはすごいと思いました。この本を読んで、印象に残ったのは、「櫓の声波ヲ打つて腸凍ル夜や涙」という俳句です。この俳句を読んだ時に、自分も船の中にいるような気がして、急に寒さと悲しみが押し寄せてきました。このような短い言葉に大きなインパクトがあるとは思いませんでした。



松尾芭蕉との3回目の出会いは、和歌山大学の、Collins 教授の古典文学翻訳の授業や松下先生の日本文化入門の授業で、松尾芭蕉の「奥の細道」を再読したことです。

人の平均寿命が50歳の江戸時代に、芭蕉は40歳過ぎの高齢で旅立って、二千四百キロを歩いたということが、私には想像できないのです。私は「行春や鳥啼魚の目は涙」という俳句が非常に美しいと思います。春が暮れて、鳥が啼いて、魚が涙を流すという詩句に沿って淡い感傷がゆっくりとやってきます。これが「惜春」というものかもしれません。

松尾芭蕉の俳句を読んでみると、彼が人に与えるイメージは非常に多様だと思います。「冬の日や馬上に氷る影法師」を読むと、彼が孤独な旅人であるような気がします。「露とくとく試みに浮世すすがばや」の場合は、心が冷めた老僧であるような気がします。しかし、松尾芭蕉は童心に満ちている一面もあります。例えば「あら何ともなや昨日は過ぎて

河豚汁」、「愚に暗く茨を掴む蜚かな」などの詩句を読むと、彼は可愛い子供のようにも思えます。「月十四日今宵三十九の童部」という彼の俳句がいうように、39歳とはいえ、まだ子供です。

松尾芭蕉との三回の出会いを通して、私の心の中で彼のイメージが変わっていったような気がします。最初の単純な文学の大家という薄っぺらなイメージから、後の生き生きとした孤独な旅人のイメージへと変化しました。松尾芭蕉と弟子の坪井杜国は春に奈良や大阪などの桜を見に行き、四月には京都に着きました。京都で坪井杜国と別れましたが、これが坪井杜国とのさよならでした。芭蕉にとって杜国は弟子だけでなく、知己でもありました。二人の笠に「乾坤無住同行二人」と書いたように、天と地の間に旅行して、同行する人は君と私二人です。杜国を失った芭蕉は、人生の旅で同行した人を失って、孤独な旅人になりました。

人生も孤独な旅ではないかと思えます。大学に入ってから、いつのまにか、高校の友達との話が少なくなりました。携帯電話のような先進的な通信設備があっても、共通の話題は少なくなって、なんとなくお互いが遠ざかっていくような気がしました。

ある人は人生を電車にたとえて、多くの人は降りて、乗って、でも、最後は一人で人生の終着駅にたどり着くと書きました。電車と違って、松尾芭蕉は人と人の出会いを桜にたとえました。「命二つの中に生まれたる桜哉」では、久しぶりに旧友と再会し、別々の人生を歩んでいた二人だが、出会った時には二人の心の中に同じ桜が咲いています。日本では「桜は七日」という言葉がありますが、桜の花の命は、わずか七日間だけで、短い時間ですが、とてもきれいです。人と人との出会いも、桜と同じように短いけれど美しいのかもしれない。

松尾芭蕉は「旅人」を自任して旅行し、旅の途中で死にました。松尾芭蕉には旅行者のイメージがぴったりかもしれません。「住みつかぬ旅の心や置火燵」、旅人だけが彼の心を理解できるのかもしれない。松尾芭蕉の俳句は旅行中で作られたものが多く、旅行中で読むのにも適しています。今中国の若者の間で、こういう言葉が流行しています。「生活には目先の苟且だけでなく、詩と遠方もあります」、その意味は、「今の生活に縛られるのではなく、遠くの理想を追い求めるべきだ」、ということです。松尾芭蕉を読むと、「詩と遠方」に新しい気づきがあります。

【参考文献】

- ・ 陳黎、張芬齡『但愿呼我的名为旅人：松尾芭蕉俳句300』（2019年、北京聯合出版社）
- ・ 徐建雄『奥之細道』（2020年、浙江文芸出版社）

My meeting with Matsuo Basho

BI CHEN

Faculty of Education, Exchange Student/China

Haiku, as a kind of Japanese characteristic literature, is very important in the Japanese literary circle. As a master of haiku in Japan, Matsuo Basho, known as "sage of haiku", played a pivotal role in the development of haiku art in Japan. As a Japanese learner, I have had three encounters with Matsuo Basho and his works. The first time was in the presentation of the class. In the process of preparing for the presentation, I had my first encounter with Matsuo Basho. The next time I met Matsuo Basho, I happened to read a collection of his haiku poems in a bookstore. The third time I met Matsuo Basho was in the class at Wakayama University, where I studied his book *Oku no hosomichi*.

Through these three encounters, I felt the charm of haiku. The short 17 syllables can express the season and their feelings. Although the number of words is not much, emotional rendering is extremely strong. Reading his haiku, I feel as if I were in the scene and traveling with him.

For me, there are many images of Matsuo Basho. Sometimes he is a lonely traveler; Or like an old monk; And occasionally as cute as a child. Matsuo Basho spent the last ten years of her life traveling and died in the process. Perhaps the most fitting image for him is a traveler.

我和松尾芭蕉先生的相遇

毕晨

教育学部 交换留学生/中国

俳句作为一种具有日本特色,在日本文学界极具重要。而松尾芭蕉作为日本的俳句大师,被称为“俳圣”的他对于日本的俳句艺术发展的作用是举足轻重的。我作为日语学习者,曾三次接触到了松尾芭蕉先生及其作品。第一次是在课堂的发表上,在准备发表内容的过程中,是我与松尾芭蕉的第一次相遇。第二次和松尾芭蕉的相遇是在书店,我偶然间阅读了他的俳句集。第三次与松尾芭蕉的相遇是在和歌山大学的课堂,学习了他的著作《奥之细道》。

通过这三次和松尾芭蕉的相遇及其对其俳句的阅读,我感受到了俳句的魅力。短短的17个音节就可以将季节和自己的情感表达出来。字数虽不多,渲染力却极强。读他的俳句,仿佛自己身临其境,在和他一起旅行。

在我看来,松尾芭蕉有许多形象,有时他是一名孤独的旅人;又像是一名已经看破世间的老僧;偶尔又像孩童一样可爱。松尾芭蕉在旅行中度过了自己最后的十年,也在旅行的过程中溘然长逝。可能对他来说,最贴切的形象莫过于旅人吧。

「ああ～」と言うほどに

ジョヴァンカ アリフ サプトラ
日本語・日本文化研修留学生 インドネシア

私はインドネシアのガジヤマダ大学から和歌山大学へ留学に来ました。今年は、コロナの影響で来日がのびのびになってしまいました。色々大変でしたが、最後まで諦めなくて良かったです。自分の頑固さに感謝です。来日は他の留学生よりはかなり遅れましたが、まだ留学期間終了まで何か月かあったので良かったです。それまでは、もし日本にいる期間がただの半年でも、一か月でも、どうしても日本に行きたいと思っていました。ですので、少し残念ですが、日本に留学できたことに感謝しています。

日本に行きたかった理由は異文化を体験したかったからです。確かに、最初のきっかけは日本のアニメへの憧れからでしたが、日本語と日本文化を学んでいるうちに、アニメ以外の文化にも興味がわいてきました。異文化と言っても、日本とインドネシアの文化の違いは山ほどあるので、最初は「何でもいいから、体験したい」と考えました。そこから始まったのが、私の「異文化冒険」です。

来日したわずか1か月に「忘れられない」異文化体験をしました。インドネシアではお湯なしでのシャワーは普通ですが、「せっかく日本に来たのだから、お風呂に入りたいな」と考えました。ですが、残念ながら部屋にあるお風呂は小さくてあまり気持ちよくなかったのです。

その時、あるアイデアが浮かびました。「日本には銭湯というものが普通じゃないか」と考えました。早速、日本の友達に聞いてみました。「ね、ここら辺って銭湯とかあるん？」。すると「あるよ、一緒に行く？」と返事が来ました。本当に嬉しかったです。夜になって、早速友達と銭湯に行きました。歩くのにはなかなかの距離でしたが、着いた時ワクワクが止まりませんでした。銭湯とかは初めてなので、楽しみにしていました。

銭湯には行って、最初に思ったのは「広いな」でした。頭の中には、アニメの影響を受け

て、イメージがありましたが、思っていたのとは違いました。それに、ハイテクで販売機械からクーポンを買ってから入る、ということは全く思っていませんでした。

和大生用のクーポンを買って、店員に学生証を見せた後、いよいよお



風呂に入れるのです。すると、驚いたことに、皆全裸でした。実は前もって頭の中で想像していたのですが、「たぶん、全裸だよな、でも待ってよ、アニメにはタオルをつけたまま入れるお風呂もあるじゃないか」と思い込んでいたのです。でも、やはり、全裸でないと入れませんでした。本当に恥ずかしかったです、皆の“前”が見えていて、私のも皆に見えるのが、本当に恥ずかしかったです。着替え中ずっと“前”をタオルで隠していました。隠したままにしているつもりでしたが、中に入るとやはり無理でした。ですが、はずかしさより、驚いた気持ちの方が大きかったです。

中はお風呂というより、プールでしたが、一つだけではなく、色々なお風呂がありました。それぞれのお風呂の温度が違っていて、効果も違うらしいです。それと、中にはサウナがあって、外には露天風呂もありました。「最高だな」と思いました。体を洗ったあと、一つ目のお風呂に入る直前に思わず「ああ〜」と口から出てしまいました。それほどの解放感と気持ちよさでした。「何時間でも入ってられるな、これ」と思いました。その後も色々なお風呂に入りました。泡がいっぱいのお風呂や、マッサージ用のお風呂や、生ぬるいですが気持ちいいお風呂にも入りました。ですが、やはり日本の温泉は露天風呂ですよ。露天風呂はすごかったです。その時は冬だったので外は寒くお風呂は熱く、最高でした。それに、外にはテレビがあって、長い時間でもあきずに入っています。それと、サウナです。私はサウナに入るのは生まれて初めてで、最初は5分も耐えられませんでした。それでも、いい体験だったと思います。あの時は初めてなので、1時間ぐらいしか銭湯にいなかったです。

お風呂から出たあと、ずっと憧れだったことをやりたいと思って、友達に「お風呂の後は牛乳とかは飲まないの？」と聞いたら「飲むよ」と答えたので、嬉しかったです。アニメでは、よく温泉から出た後牛乳をビンから飲むシーンを見ましたが、本当にそうなのかはその時までは疑問でした。やっと憧れのシーンを再現できる。牛乳を飲み終わった瞬間、



また思わず「ああ〜」が口から出てしまいました。本当に美味しかったです。日本のお風呂文化はやはり最高でした。「ああ〜」と言うほどに最高です。

Until You Says 「Aah～」

JOVANKA ALIF SAPUTRA

Japanese Studies Student / Indonesia

I am an exchange student from Universitas Gadjah Mada Indonesia. My first time I came to Japan it was not a really an enjoyable experience. When I first came to my soon to-be room, there's a lot of problems. One of it was the hot water won't come out, so I was forced to not bathed for around a week because it was winter and it's too cold to take shower without hot water. It was a torture until I found out from my friend that around my apartement there's a public bathhouse. It was my first experience going to public bathhouse, so there's a lot of new things for me. There's so much type of huge bathtub with different features and effects, so it's not a boring bath at all for me. After bath you can even drink milk from bottles like an anime scene. This new experience was really making me go 「Aah～」 the whole time. Japanese bath is the best!

Hingga Membuatmu Mengatakan 「Aah～」

JOVANKA ALIF SAPUTRA

Mahasiswa Studi Jepang / Indonesia

Saya adalah seorang mahasiswa pertukaran pelajar dari Universitas Gadjah Mada Indonesia. Pengalaman pertama saya pergi ke Jepang, awalnya tidak bisa dibilang menyenangkan. Pertama kali saya menuju kamar saya, terdapat banyak sekali masalah di kamar itu. Salah satu masalahnya adalah air panas tidak bisa mengalir, sehingga saya terpaksa untuk tidak mandi hamper selama 1 minggu, dikarenakan saat itu musim dingin dan sangat menyiksa mandi tanpa air hangat. Hal ini sangat menyiksa, sampai akhirnya saya mendapatkan informasi dari teman saya, bahwa disekitar apartemen saya terdapat pemandian umum. Hal ini merupakan pengalaman pertama saya, sehingga banyak sekali hal baru bagi saya. Terdapat banyak jenis bak mandi yang tersedia dengan beragam fungsi dan kegunaan. Seusai mandi kamu bahkan bisa meminum susu botol seperti yang berada di anime. Pengalaman ini benar-benar membuatmu mengatakan 「Aah～」 sepanjang waktu. Pemandian di Jepang memang luar biasa!

人間性を守る

ファジナル スチヤディ
経済学部 2年 インドネシア

生まれてからずっと大都市に住んでいる私は「和歌山で一番印象に残っていることは何ですか？」と聞かれたら、それは道端で野菜の売り場をよく見かけることだと答える。季節別の野菜と果物を何個か並べており、支払いはその近くにある金箱に入れ、おつりが要る場合は、その金箱から自分で取ることができる。

田んぼの近くだけでなく、和歌山市内の屋台や、お店などで商品を外に置いていても大丈夫である。これを見ると、商品が盗まれ放題ではないかというぐらい異常な光景である。だがこれは和歌山ならではの魅力だと思う。確かに、店の前に防犯カメラが設置されているが、もし千円ぐらいの商品が盗まれたら警察が犯人を探すにも大変なはずだ。これを見ると、私はいつも「何で？ どうしてそこまで他人を信じているの？」と考える。出身のジャカルタでは、弱肉強食の社会なので、営業時間外になると商品は錠を掛けてとにかく商品を守るべきであり、商品を外側に並べると、絶対にその商品を守る店員がいる。利潤を追求するために、商品は命のようなものであることは当たり前のことである。



無人野菜売り場を見かけた数ヶ月後、私は海南のある文化交流イベントに誘われた。実際は、立派な文化交流ではなく、周囲の農家の英語サークルだった。彼らは元英語教師で定年した後も、英語で会話できるように私と練習していた。当時、その中のあるメンバーは収穫したばかりの野菜を売りたいという話をした。好奇心から、私は、収穫した野菜はどこで売ると聞いた。彼は、道端へ売りに行き、野菜を置き、また週末に売り上げを出すと言い出した。それを聞いた時、私は、ほんの少しの野菜を無人売り場で売るのは利潤になるのかと思った。もし、誰かに置いた野菜を全部盗まれてしまったら、1円たりとももらえないだろう。私とその言葉を伝えた時の彼の答えは今までもまだ覚えている。

その日に収穫した野菜は、利潤のためでなく、人間性を守りたいから道端で売ると答えた。実際に、その答えを聞いたとき、私は全然納得できなかった。私の納得できない顔を見て、彼は言い続けた。我々はずっとお金のため、より余裕のある生活を欲求し、働いている。そして、自分の富を守るために、自分のことしか考えず、他人を信頼できなくなる。確かに、お金があれば、我々の生活水準が向上し、より健康で、より幸せな生活ができる。しかし、その代わりに、他人を犯人のように常に疑っていけば、我々の人間性が崩れてしまうと云った。



経済学を学んでいる私は利益や利潤、お金の管理、出来るだけコストを低く、利益を高めることを常に考えている。世の中のことは数字でしか表現できない私はその時やっと納得できた。商品や利益は確かに数字で表しているが、信頼性のような数字で表していないものに価値がないわけではない。我々の社会は一人一人の信頼性からつくられているものである。他人を信じ、より良い生活のために一緒に協力していることにより、我々は現在この素晴らしい世界に生きている。しかし、現在の我々は技術は信頼できるが、人間同士は完全に信頼できなくなっている。確かに、無人の野菜売りに売りに行った農家も、八百屋に売るのに比べたらあまりにも利潤は少ない。だが、人間性を守るため、他人を信頼し、無人売り場で野菜を売っている。非常に素晴らしい行動だと思う。

今の時代では、AI や技術などは想像以上に進んでいる。便利な生活になっているが、人間として段々人間性を忘れてしまう。自分の利潤を追求するために、他人を疑い、自分勝手に動き出す。人間同士の信頼や人間性をうっかり忘れてしまった私たちは、道端にある無人売り場で我々の人間性を思い出せるだろう。

Protecting Humanity

FAJAR SETYADI

Faculty of Economics / Indonesia

People often ask me, “What is the most memorable thing about Wakayama?” My answer is the trust between its people. Whenever I see a roadside vegetable stall that was unattended by staff or cameras, I think this is weird. What if someone took all the vegetables and didn't leave a penny behind? In Indonesia, people always attend their belongings because someone will steal them if you leave them unattended.

My question was answered by one of the retired teachers who becomes a farmer in the Kainan city. According to him, to trust another human being is what it takes to protect our humanity. He said that sometimes money is not everything, what is valuable is humanity and mutual trust that must be maintained by each other. In economics, everything has to be measured by profit and loss and numbers. However, there are many things that can't be measured by numbers alone. I've never thought that, I might have found the meaning of humanity at a roadside vegetable stall in Wakayama.

Mempertahankan Nilai Manusia

FAJAR SETYADI

Fakultas Ekonomi / Indonesia

Ketika saya ditanya “Apa yang paling berkesan dari Wakayama?”, saya menjawab rasa percaya antar penduduknya. Suatu hari, saya melihat kios penjual sayuran pinggir jalan yang tidak diawasi oleh staff maupun kamera. Menurut saya ini aneh, karena bagaimana jika ada orang jahat yang mengambil semua sayuran dan tak meninggalkan uang sepeserpun?

Pertanyaan saya dijawab oleh salah satu pensiunan guru yang menjadi petani di kota Kainan. Menurutnya, kemanusiaan bukanlah sesuatu yang harus diukur dengan angka. Ia mengatakan bahwa terkadang uang bukanlah segalanya, yang berharga adalah kemanusiaan dan rasa saling percaya yang harus dijaga satu sama lain. Selama belajar ilmu ekonomi, terkadang saya lupa bahwa tidak semuanya harus diukur dengan untung rugi dan angka. Saya tidak pernah menyangka kalau saya akan menemukan arti kemanusiaan di kios penjual sayur pinggir jalan di Wakayama.

可愛い電車

ヌルル イザ ビンティ カイルル アンワル
経済学部 2年 マレーシア

私はマレーシア南部、ジョホール州ジョホール・バルの出身です。そこには、JBセントラル駅という駅があります。しかし、私は一度もその駅を利用したことがありません。日本の新幹線のように止まる駅が限定されており、私には必要がなかったからです。初めて電車に乗ったのはクアラルンプールです。小さい時家族旅行で乗りました。日本語の準備学校に通っている頃はクアラルンプールに住んでいましたので、電車に乗ることは日常でした。マレーシアの電車は日本と比べると、線も少なく特別なテーマを持った電車もありません。それゆえ、日本の「可愛い電車」を見るとワクワクします。

私は和歌山に来て一人暮らしを始めました。大学の授業がオンラインになったため、友達をつくるのはとても難しかったです。しかしある日、マレーシアの友達が中国の留学生を紹介してくれました。思いもよらないことに、彼女とは同じ日本語の授業を受けていました。彼女は写真を撮ることが好きで、出かける予定があれば、時々私を誘ってくれました。そうして出かけるようになり、「可愛い電車」の存在を偶然にも知るようになったのです。

ある日、夕陽を見たかった彼女は私を誘ってくれ、一緒に磯ノ浦へ行きました。帰る時、磯ノ浦駅に、たまたま2本の「可愛い電車」が止まっていました。1本はピンク色で、もう1本は青色で、車体には「めでたい電車」と書いてありました。私はピンク色の電車に乗りました。電車内のデザインはとても可愛く、魚の形をしたつり革と鯛パターン生地 of 座席が特徴的でした。



あまりに可愛かったので、家に帰りインターネットで調べてみました。「めでたい電車」は和歌山県北西部を走る南海加太線で運行しています。「めでたい電車」は3本あります。青色とピンク色と赤色です。それぞれの電車は別々の特徴や意味を持っているのだそうです。面白いと思ったことは、赤色の電車は、青色の電車とピンク色の電車が結婚してできた子供であったということです。

ますます「可愛い電車」に興味を持ち、インターネットで調べ、次はタマ駅長を見るために、貴志川駅へ行きました。タマは猫です。タマ電車は和歌山電鉄貴志川線で運行しています。この線は私鉄で、廃線になりそうだったところを、タマ駅長のおかげで再び活性化できたのだそうです。「タマ電車」「イチゴ電車」「オモチャ電車」「チャギントンラッピング電車」「動物ラッピング電車」と「梅干し電車」の6つの種類の電車があります。「めでたい電車」と同じようにそれぞれの電車が自分の特徴を持っています。

私達は「タマ電車」に乗りたかったのですが、その時は来ませんでした。その代わりに、「オモチャ電車」と「チャギントン電車」に乗りました。「オモチャ電車」の内部にはおもちゃがたくさんあり、ガチャポンもあります。私はその電車に乗りながら、ガチャポンでおもちゃを買ってしまいました。もう一方の「チャギントン電車」はチャギントンパターンの座席があります。2本とも可愛かったです。



私は和歌山に住んだばかりなので、まだ「めでたい電車」や貴志川線の電車のような「可愛い電車」の全てには乗れていません。今度機会があれば、全ての電車に乗りたいです。さらに、和歌山だけでなく、日本全国の「可愛い電車」に乗る体験がしたいです。電車やその線の歴史も知りたいです。こんな「可愛い電車」に乗ると、胸が躍り嬉しくなるからです。コロナウィルス感染症が終わったら、私の家族も連れていき、私が乗った「可愛い電車」を体験させてあげるつもりです。

Adorable Trains

NURUL IZZAH BINTI KHAIRUL ANWAR

Faculty of Economics/Malaysia

When I was in Johor Bahru, I had never taken a train. The first time I got on train is in Kuala Lumpur. However, unlike trains in Japan, Trains in Malaysia do not have any themes or special lines. So, I have high expectation for trains in Japan.

I came to Wakayama and started living alone. One day, I was introduced to a Chinese student that likes to take pictures. If she plans to go out, she invites me to tag along. Since then, I have known the existence of adorable trains for the first time.

From Isonoura station, I got to ride pink [Medetai Train] on Nankai-Kada Line. Meanwhile, I got to ride [Toys Train] and [Chuggington Wrapping Train] on Kishigawa line when we went to see Tama Stationmaster.

I would like to experience riding not only adorable trains in Wakayama but also all over Japan. I also want to know the history of the trains and their lines. I was thrilled when I got on the trains. I plan to take my family with me so that they can experience the 'cute train' that I rode.

Kereta Api yang Comel

NURUL IZZAH BINTI KHAIRUL ANWAR

Fakulti Ekonomi/Malaysia

Semasa saya di Johor Bahru, saya tidak pernah menaiki kereta api. Kali pertama saya menaiki kereta api adalah di Kuala Lumpur. Namun, Kereta Api di Malaysia tidak mempunyai tema atau laluan khas seperti di Jepun. Oleh itu, saya mempunyai harapan yang tinggi terhadap kereta api di Jepun.

Saya datang ke Wakayama dan mula tinggal sendirian. Suatu hari, saya diperkenalkan dengan seorang pelajar dari Cina yang suka mengambil gambar. Dia akan mengajak saya jika dia merancang untuk keluar. Sejak itu, saya tahu akan kewujudan kereta api yang comel untuk pertama kalinya.

Dari stesen Isonoura, saya menaiki [Kereta Api Medetai] berwarna merah jambu di laluan Nankai-Kada. Sementara itu, saya dapat menaiki [Kereta Api Mainan] dan [Kereta Api Chuggington] di laluan Kishigawa ketika kami pergi melihat Ketua Stesen Tama.

Saya ingin menaiki kereta api yang comel di Wakayama dan di seluruh Jepun. Saya juga ingin tahu sejarah kereta api dan laluannya. Saya sangat gembira apabila menaiki kereta api tersebut. Saya bercadang untuk membawa keluarga saya menaiki kereta api comel yang saya telah naiki.

四季の美しさ

サラ フダ ビンティ ノール アザム
観光学部1年 マレーシア

私はマレーシアの留学生です。今はコロナで入学できませんから、マレーシアからオンラインで授業を受けています。マレーシアは四季のない国で一年中暑くて湿度が高いです。雨もよく降っています。特に11月から1月の間にモンスーンの風で大雨が毎日降っていて洪水になった所も多いです。洪水で死んでしまった人や動物もいるし、家や学校、店などが泥まみれになってしまったので大勢の人々が大変苦しんでいます。そのため、マレーシアは空が晴れていて暑いか雨が降るかの二つの「季節」だけがあります。

子どもの頃、母が家の冷凍庫を整理している時、私は姉と冷凍庫の氷を削ってボウルに入れて小さな雪だるまを作って遊びました。また、母が庭で落ち葉を掃いている時、私たちは集まった落ち葉を踏んで「秋だ!」と想像しました。四季のはっきりしない暑い所で育った私は、小さい頃から四季を体験することを夢見てきました。秋になると、きゅっきゅっと足元で落ちた葉が鳴り、冬になると、周りが白一色になって日本の子どもたちが楽しく雪だるまを作っている場面をよくテレビで見っていました。その時、「四季がある国に住んでいたらよかったなあ」と自分の中から声が聞こえました。暑いだけではなく春と秋の涼しさ、冬の寒さも感じるができる子どもたちを見てうらやましかったです。

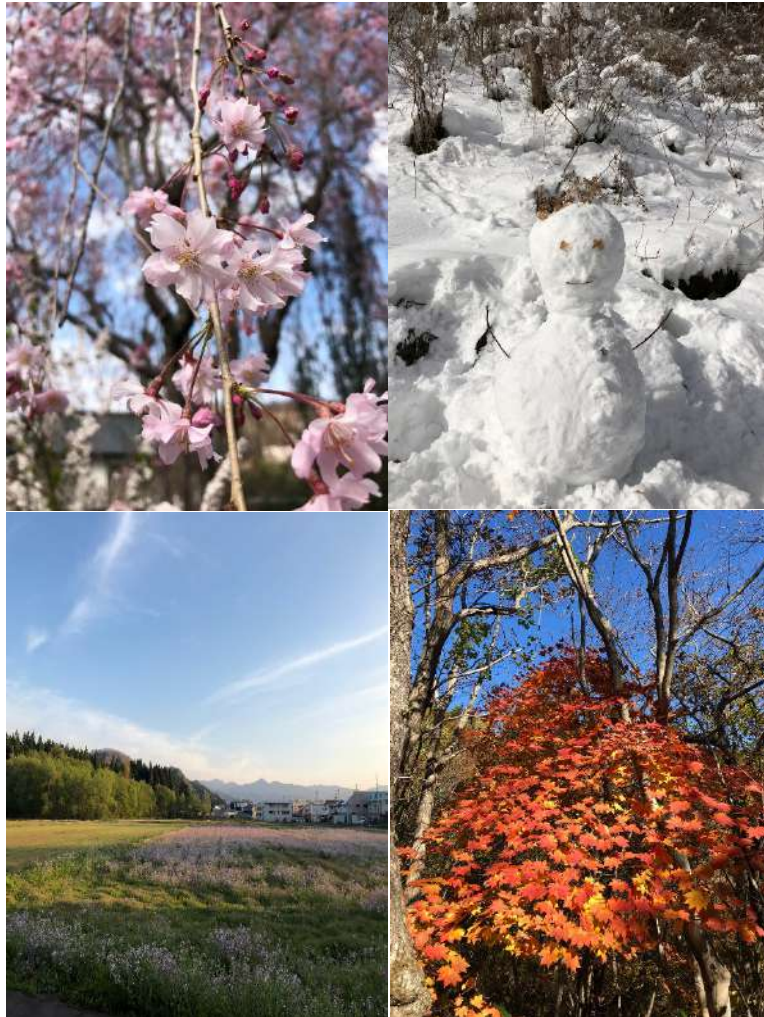
ある日、私は日本語学校の先生に「冬といえば雪まつりや雪遊びなど楽しいことしか考えられませんが、雪が原因で亡くなった人もいますか?」と聞きました。実は雪が原因の交通事故で何人もけがをしてみたり、屋根の雪を下ろそうとしてお年寄りが命を失ってしまったり、このような悲しいニュースが冬によく流れていると先生に言われました。また、春は花粉症になってしまった人も多いし、夏は暑くて乾燥しているため、熱中症にかかった人もいます。私はこれらのことを初めて聞いたので驚きました。それ以来、春夏秋冬の四季は楽しいことだけではなくて、マレーシアと同じくそれぞれ乗り越えなければならない大変さがあることがわかりました。それでも、日本の四季を体験するという夢は決して変わりません。日本の季節についてさらに興味を持つようになりました。早くコロナが収まって日本へ行って和歌山大学で勉強できたらとてもうれしいです。一度も海外に行ったことがないから、日本へ行けばきっと季節を感じる機会がたくさんあると思って楽しみです。

福島大学で勉強している姉がたくさん写真を送ってくれます。早く日本に行きたいと思ってわくわくしています。もらった写真やビデオを編集して短いビデオも作りました。和歌山大学へ行ったらいろいろなことを準備して、春は花見に行きたいし、秋は赤一色の落ち葉を自分の足で踏みたいし、冬はテレビで見たような雪だるまを自分で作りたいです。

ピンク色の桜を見ると春が大好きな母、夏の太陽がキラキラと輝いている時にはマレーシアの暑さ、部屋の窓から見られる秋の真っ赤な景色は家の庭で一緒に遊んだ兄弟、白い雪が手のひらに触れると、子どものころ作った氷の雪だるまのことを思い出すでしょう。家族と離れていて寂しいときに窓の外を見たら、家族と近いような気がして寂しくなくなるでしょう。ですから、日本の生活は一瞬一瞬を大切にしたいです。

四季のない国に住んでいる私ですが、家族と一緒に作った思い出は小さい頃にテレビで見た日本の子どもたちと何ら変わりがないことに気づきました。それが私にとって四季の美しさです。

みなさんの大好きな季節は何ですか？



The Beauty of the Four Seasons

SARAH HUDA BINTI NOR AZAM

Faculty of Tourism / Malaysia

Malaysia does not experience four seasons. Since I was little, it has always been a dream to build a snowman together like the other kids do during those seasons I saw on television. Every time my mother cleans the freezer, my sister and I will build a small snowman with the shaved ice from the freezer. When she sweeps the dried leaves in the garden, we always play around and pretend that it was autumn. Growing up, I learned a lot of new things about the seasons in school especially the hardship that people have to go through. It really opened my eyes and I am very thrilled that I get to further my studies in Japan to experience the four seasons. In Japan I want to make the best out of it and capture all memories. The pink cherry blossoms remind me of my mother, the beaming sun during summer reminds me of Malaysia, the red leaves remind me of my siblings playing in the garden and the white snowflakes reminds me of my version of snowman. Whilst being away from my family, when I see these colours, somehow, I will feel close to them. That's when I realize although I live in a country that does not have four seasons, the memories I made with my family have no difference than the kids I saw on the tv when I was little. And that is the beauty of the four seasons to me. What is your favourite season?

Kecantikan Empat Musim

SARAH HUDA BINTI NOR AZAM

Fakulti Pelancongan / Malaysia

Malaysia tidak mempunyai empat musim. Dari kecil lagi saya ingin membina orang salji seperti kanak-kanak lain yang saya lihat dalam televisyen. Setiap kali ibu saya membersihkan penyejuk beku, saya dan kakak saya akan membina orang salji kecil menggunakan ais daripada penyejuk beku tersebut. Kami juga akan bermain-main apabila ibu menyapu daun-daun kering di taman sambil membayangkan ia sedang musim luruh. Semakin besar, saya mempelajari banyak perkara baru mengenai empat musim termasuk kepayahan yang perlu dihadapi semasa musim-musim tertentu. Ia menarik minat saya dan saya amat gembira dapat melanjutkan pelajaran ke Jepun serta menambah lagi ilmu pengetahuan tentang empat musim. Di Jepun, saya ingin menghargai setiap masa di sana. Walaupun terpaksa berjauhan dengan keluarga, apabila saya lihat bunga sakura ia mengingatkan saya pada ibu saya, cahaya matahari yang bersinar mengingatkan saya pada Malaysia, kemerahan daun-daun pada musim luruh mengingatkan saya pada adik beradik saya bermain di taman, dan salji yang putih mengingatkan saya pada orang salji yang saya bina dahulu. Walaupun Malaysia tidak mempunyai empat musim, kenangan yang saya ada bersama keluarga sangat bermakna dan itulah kecantikan empat musim bagi saya. Apakah musim kegemaran anda?

私の留学生活

林 丞緯

経済学部 4年 台湾

私が日本に留学に来てからもう4年半ほど経ちました。留学というとなんとなくめっちゃくちゃ楽しいものであるイメージがあるかもしれませんが、しかし、この4年半の留学生活の間には、様々なことを経験してきました。楽しいときも苦しいときもありました。今までの留学生活で感じたことについて語りたいと思います。

4年半前、日本に初めに留学に来たときは、すごく興奮して、「やっと大好きな日本に来たぞ」、「日本の留学が始まるぞ」と思いました。自信満々でこれからの留学生活を楽しみにしていました。しかし、そのような自信満々の私は長く保たずに、がっかりしてしまいました。なぜなら、日本語が上手ではなかったからです。日本に来る前に、独学で日本語を学びましたが、実際に日本に来てみると、日本人の喋るスピードがすごく速いと感じました。私は常に、一体何を喋っているか分かりませんでした。相手の話を理解したいと思って、1回で理解できなかつたら、2回も3回も「もう一度お願いします。」と言ってしまいました。そして、やっと相手の話が理解できましたが、今度は自分の言いたいことがちゃんと相手に伝えられませんでした。その結果、私は日本人に嫌がられてしまいました。



私と話したくなくなるようなこともありました。日本では、会話をキャッチボールと比喻することがあります。私は相手が投げた言葉のボールを、すぐにキャッチしたいのですが、結局ボールは床に落ちてしまいます。そういう時に、特に苦しいと感じました。どうすればいいのかという思いが頭の中で何回も回りました。

その時、国際交流会のポスターを見かけたのです。そう。何もしなかつたら、日本語は絶対に上達になれません。とりあ

えず、参加してみようと思いました。実際に参加すると、交流会での日本人の方々が私の下手な日本語を気にしなくてゆっくり優しく話してくれて、心がすごく暖かくなりました。そのとき話してくれた方々のおかげで、私はだんだんスムーズに日本語が話せるようになりました。本当に感謝しています。

一方、留学をしてももちろん楽しいことがありました。特に、高野山ツアーで楽しい経験をしました。休みの日に、和歌山大学の観光学部主催「ばあむ高野山ツアー～歩こうや～」というイベントに参加して、観光学部の学生たちと一緒に世界遺産の高野山に行きました。私の国台湾には世界遺産はありませんので、世界遺産に行くのは初めてで、私にとって非常に貴重な経験でした。高野山にある奥の院や檀上伽藍、金剛峰寺などの神聖なスポット

を拝観しました。塔、堂、寺などの荘厳な建物を巡って、さすが世界遺産だと思いました。それから、お昼ご飯は、お肉やお魚が使われずに野菜や果物、海草など植物性食品を材料として作られた「精進料理」でした。「精進」とは、悪を断って善を行い、つとめに励むという意味だそうです。仏教では食も修業の一つと考えられていて、心をこめて料理をして、それをありがたくいただいて、心身を養います。それが精進料理だそうです。高野山の落ち着いた雰囲気の中でゆっく



りと精進料理を味わいました。とても美味しかったです。心身ともに満たされました。世界遺産の魅力を感じて、高野山が好きになりました。また高野山へ行こうと思いました。

留学生活には楽しい時も苦しい時もありますが、苦しいと感じる時もあきらめずにいろいろなことにやってみる、参加してみるという気持ちは非常に大事だと思うようになりました。そのためには、いろいろな方々と交流したり、いろいろな観光名所へ足を運んだりすることが大事です。それによって、留学生活がより楽しくなると思います。

これまでの留学生活の様々な体験は、私の人生にとっての宝物になりました。

My Study Life in Japan

LIN CHENWEI

Faculty of Economics / Taiwan

I have been studying in Japan for four years, and most people may have a very happy impression of studying abroad. But in fact, studying abroad also experience happiness and pain, so let me talk about it. When the plane took on landed in Japan, I was very excited. I will start my study abroad life in Japan! But this self-confident I did not last long. Because my Japanese is not good enough. Before I came to Japan to study, I learned some Japanese, but after arriving in Japan, the Japanese speak very fast. I didn't know what the person is talking about soon. To understand the person's explanation, I will ask the person to speak again. A few times, I finally understood what the person said, but I didn't know how to respond to him. So, the person didn't want to talk to me again, which made me feel very discouraged. But if I sit and wait, Japanese will not improve, so I participate in exchange activities to practice my Japanese. The Japanese at the exchange activities are very friendly and not dislike my broken Japanese. Of course, studying abroad has a lot of fun! During the holidays, I took part in the Koyasan tour, visited various stately buildings in the World Heritage Koyasan, and tasted unique Shojin cuisine. Finally, these experience of studying abroad made me realize that even if there are painful things, I must face it upright, so that I can live a happy life.

我的留學生活

林 丞緯

經濟學部 / 台灣

我來日本留學已經四年了，大部分人對於留學可能都抱有很歡樂的印象。但是其實留學也會經歷快樂和痛苦的事，這就讓我娓娓道來吧。

四年半前，當搭乘的飛機著陸日本的土地時，我非常的興奮，心裡想著，從今天開始我就要在日本展開我的留學生活了！但是這個充滿自信的我並沒有保持很久。這是為什麼呢？因為我的日文不夠好啊。來日本留學前，有學過些日文，但實際到日本之後，日本人講話的語速非常快，快到我常常不知道對方在講什麼，為了要理解對方解的話，我會請對方多講幾次，好不容易聽懂對方講的話了，但我不知道怎麼回應人家，結果對方就不想理我了，這讓我感到很氣餒。但是如果我都坐以待斃的話，日文是絕對不會進步的，所以我就去參加交流活動，多多和日本人交談練習日文。交流活動上的日本人都非常友善，不會嫌棄我的破日文，讓我很感謝他們。

當然留學有許多令人開心的事啊！假日的時候，參加了由和歌山大學觀光學部主辦的高野山旅行，參觀了世界遺產高野山裡的各式各樣莊嚴的建築物，來品嚐了獨特的精進料理，這次的旅行讓我喜歡上高野山，我一定還要再來。

最後，在這些留學生活裡，不管是痛苦也好快樂也好，都成了我人生重要的一部份。

日本で暮らすムスリムとしてのチャレンジ

シティ アミラ アマニ ビンティ アリアス
経済学部 2年 マレーシア

私はマレーシアからの留学生です。マレーシアは多民族国家で、様々な人種や異なる宗教を持つ多くの方が住んでいます。それにもかかわらず、国教としてはムスリムの国です。私は子供の頃から、マレーシアにしか住んだことがありません。そんな私はムスリムの国ではない国に住んでいるムスリムたちのことを一切考えたことはありませんでした。しかし、実際に、日本に留学することになってから、自分の生活も大分変わってきました。ですから、今回は自分の経験をもとにして、日本あるいは和歌山で暮らしているムスリムのチャレンジについて書きたいと思います。

日本は言うまでもなく、ムスリムの国でもないし、住んでいるムスリムの数もそれほど多くはありません。だから、日本人はあまりムスリムの人を見たり、会ったりする機会はほとんどないと思います。さらに、そもそも「外国人」に会う機会もあまりないでしょう。そのため、ヒジャブをかぶっている私は常に奇妙に見られている気がします。最初は少し悲しかったです。何もしていないのに、子供が私の姿を見た途端、すぐ泣いてしまいました。電車の中では、私の隣にだれも座らないし、目を瞬くことなしにじっと見られたこともよくあります。しかし、時間がたつにつれて、だんだんそのようなことに慣れてきました。

私は友達を作るのが大好きですが、日本ではなかなか友達はできません。コミュニケーションの問題か、時々それ以外のことが理由なのかなと思っています。しかし、いつの間にか私は彼らが私と友達になりたくないわけではなく、恥ずかしいから私に話しかけないということがわかりました。日本人はそのような性格ですから、まず自分から話しかけなければならぬことがわかってきました。

ある夜のことで。私と一人のマレーシア人の友達が家に帰る途中、驚いたことに知らない人が私たちに声をかけてきました。その人は同じ和歌山大学の学生で、1年上の先輩でした。実はこれが日本人から話しかけられた初めての経験です。その時、私は非常にうれしかったです。

友達は人生に必要ですが、生きていくために一番重要なのは食べ物です。イスラム教には食べ物や食べ方に関する守るべきルールがいくつかあります。みなさんはハラール商品について知っていますか。ハラールの食べ物はムスリムが食べられる食べ物のことです。アルコールや豚肉以外の食べ物またはイスラム教の特別な切り方で準備された肉が含まれています。東京や大阪のような都会でなら、ハラール商品は安易に手に入れることができますが、日本のハラール商品の発達はまだまだ遅いと思います。そのため、田舎に住んでいるとあまりハラールのレストランやハラール商品を売っている店は見かけません。

しかし、和歌山にはあるスーパーがたくさんハラール商品を売っています。そのスーパーの名前は「業務スーパー」です。そのスーパーでハラールの牛肉は買えませんが、鶏肉やから揚げなどいろいろな商品が買えます。牛肉を買いたいなら、「Baticrom」というオンラインショップがあります。その店は東京にあります。日本中に届けることができます。



大阪にはハラールのレストランがたくさんあります。和歌山市と大阪は近いので、焼き肉やラーメンを食べたくなったら、大阪に行きます。私はそれに満足していますが、せっかく日本にいるのに、ハラールではないラーメンを味わうことができないのは残念なことです。それはハラールのラーメンの作り方と材料が普通のラーメンと少し違うので、味も同じではないかもしれないからです。しかし、私は日本のハラール商品の発達がこれから進化しつつあると期待しています。

食生活のほかにイスラム教の人たちが注意することで、私たちの人生に最も必要なのは祈りのことです。みなさんは、どこに行っても、何があっても、毎日5回決まった時間にお祈りをしなければならぬことを知っていますか。私の国にはどこにでもモスク(お寺のようなイスラム教のお祈りするための建物)や「プレーイングルーム」があります。日本には全然ないわけでもなく、あるのですが少ないです。例えば、神戸や東京にはあります。

面白い話ですが、私は日本に来てから、意外な場所でお祈りをしたことがあります。例えば、フィッティングルームや海岸です。マレーシアにいた間、このような場所でお祈りするとは思ってもみませんでした。お祈りするときは、隠れてお祈りをしなければ、追いつけたりすることもあります。私が感謝していることは、和歌山大学にムスリムの学生のための「プレーイングルーム」が備えられていることです。



最後に、私の作文を読んでいる皆さんにお願いしたいことがあります。外国人であっても、ムスリムであっても、みんな同じ人間ですから、仲よくしたり、お互いに文化や人生に関することを学んだりしましょう！これからも日本が「ムスリムフレンドリー」な環境をどんどん作り続けてゆくことを期待しています！

The Challenges of Living in Japan as a Muslim

SITI AMIERA AMANI BINTI ALIAS

Faculty of Economics / Malaysia

As a person who was born and raised in an Islamic Country, never have I ever thought about the conditions and challenges of other Muslims living in a non-islamic country. However, when I started living in Japan as an International Student, I began to realise a lot of things that which I probably took for granted back in my own country. Some of the challenges include not being able to make friends as I look 'weird' wearing a hijab. Not only that, some kids even cried loudly when they saw me. Moreover, I also faced trouble in finding Halal food and Halal restaurants. Other than that, it's difficult to find a Mosque or even a place to perform my prayers. Lastly, I hope Japanese people reading my essay know that no matter our race and religion, we are all the same human beings, thus I hope we can live peacefully together and learn from each other's experiences. I also hope that in the future Japan can become a more Muslim friendly environment.

Cabaran Seorang Muslim yang tinggal di Jepun

SITI AMIERA AMANI BINTI ALIAS

Fakulti Ekonomi / Malaysia

Sebagai seorang Muslim yang dilahirkan dan dibesarkan di Malaysia, sekali juga saya tidak pernah memikirkan keadaan dan cabaran saudara Islam yang tinggal di negara bukan Islam. Namun begitu, setelah tiba dan alami hidup di negara asing iatu Jepun ini sendiri, saya telah menyedari beberapa perkara tentang kehidupan di negara bukan Islam. Antara cabaran yang saya hadapi disini ialah, kesukaran untuk menjalinkan hubungan persahabatan bersama penduduk negara ini. Mereka seringkali memandang pelik akan diri saya yang memakai hijab. Terdapat satu kejadian dimana seorang kanak-kanak melihat saya dengan ketakutan dan menangis. Selain itu, saya jugak menghadapi cabaran untuk mencari makanan halal dan tempat yang sesuai untuk menunaikan ibadah solat. Akhir sekali, saya berharap bahawa penduduk Jepun sedar walau apa jua agama dan kaum, kita semua adalah manusia yang sama dia muka bumi ini. Maka, ayuhlah kita bersama-sama menjalinkan hubungan persahabatan sambil saling bertukar pengalaman hidup dan pengetahuan. Saya juga berharap agar Jepun menjadi negara mesra muslim di masa akan datang.

習慣とマナー

シティ ノラジュマル ビンティ アズミ
経済学部1年 マレーシア

私はマレーシアの留学生です。二年前の私は日本のことについて、日本人は箸を使って食べる以外にはあまり知りませんでした。私の習慣やマナーに関する知識の源はドラマだけでした。各国には独自の習慣とマナーがありますが、その習慣についてもっと知りたいとは思いませんでした。しかし、この2年間の日本語学習の間に、日本の社会とその国の習慣とマナーについて多く学んで、心を打たれました。日本人には今でも守っている習慣とマナーがこんなにたくさんあるとは思いませんでした。もうすぐ家族と別れて日本に一人で住むこととなりますので、日本人に怒られるだけでなく、外国人としての印象が悪くならないように、日本人の習慣とマナーをもっと学ぶことが大切だと思います。



写真1

ここでは、私が学んだ食生活と家庭訪問の習慣とマナーに焦点を当てたいと思います。

まず、食生活からです。日本には箸の使い方にはマナーとルールがいろいろあることを学びました。私の国では、ご飯を食べるときは、手を使い、麺を食べるときはスプーンとフォークを使います。でも、日本人はお箸でご飯と麺の両方を食べるので、お箸が日本人の文化であることは明らかです。でも、マナーが悪いと思われるかもしれないので、お箸を好きなように持ってはいけません。握りこぶしで手をしっかりと丸める「にぎり箸」や、真ん中で箸が十字架を横切る「黒箸」などなどの持ち方をする人がいますが、それは良くないと考えられています。ですから、私だけでなく日本を訪れたい人は、一緒に食事する方に不適切な印象を与えないように、箸の持ち方を学ぶことが大切だと思います。

そして、アニメやドラマなどでは、日本人が手を合わせて、食事の前に「いただきます」、食事の後に「ごちそう様」と言ったことがよく私は見ましたが、その習慣の意味を全然知りませんでした。イスラム教徒である私も食事の前後には祈りを唱えますが、祈りの背後にある意味を決して考えません。でも、日本人の先生からその習慣の意味を学んで、私は大変感動しました。一つ目の意味は、食材を育てている人や料理を作っている人に対して感謝することです。二つ目の意味は、肉や魚など、以前にも生命があり、私たちにエネルギー

ギーを与え、生かしてくれるために身を犠牲にしていると考えられている食材となる生物への感謝です。

次に、外国人が知っておくべき重要だと思うマナーは、日本の家を訪ねるときのマナーです。日本人が重要視するマナーや習慣のひとつは、時間通りに到着することです。私の国でも、普通は時間通りに到着するのが最善だと考えられていますが、日本は、この点で他の国よりもやや厳しいことがいわれています。到着が早すぎると、ホストはゲストを家に招待する準備ができていないのでホストに不便がかかり、逆にとても遅れて訪問すると家の方が動揺する可能性があるため、ゲストとしての印象を良くするためには時間を守ることが重要です。



写真 2



写真 3

また、到着したら、通常、ドアベルを鳴らして挨拶し、家の方に今日招待してくれたことに対して感謝します。でも、日本では、相手の家に入ると、「おじゃまします」と挨拶します。これは、「邪魔をしますすみません」という意味です。この挨拶は、家の方の招待に対して感謝を表します。次に、マレーシアと同じように、訪問するときは小さな贈り物を持参し、家の方に招待してくれたことに感謝していることを示します。

それ以外では、私の国の習慣と同じように、家の中では靴を履くことはできません。靴のままでは家の衛生環境に良くないので、家に入る前に靴を脱がなければなりません。しかし、私が新しく知ったことは、玄関の端に沿って靴を外側に向けて配置することです。

私にとって「習慣とマナー」は、他の国に住んでいるときに一番気をつけるべきだと思います。私たちは一人で住んでいるのではなく、社会の中で住んでいるので、自分の国について良い印象を持ってもらうために、他国を尊重し、その国の習慣やマナーを学ぶ必要があります。誰もが自分が失礼だと判断されたくないと思うので、他の国にいるときは自分の行動や態度をきちんとするように注意しなければいけないと私は考えます。

【写真 1・写真 3】 筆者撮影

【写真 2 出典】

株式会社ユメックス「日本は玄関で靴を脱ぎ、ドアは外開き理由は歴史と風土にあった」

<https://yumex-g.co.jp/useful/in-japan-people-take-off-their-shoes-at-the-entrance-and-the-door-opens-outward/> (2021年7月1日アクセス)

Habits and Manners

SITI NORAJMAL BINTI AZMI
Faculty of Economics / Malaysia

Two years ago, I never thought that we need to know about other countries' habits and manners. Other than eating with chopsticks, I didn't know what is, Japanese people manners and habits until I started my preparatory course. In this course, I learned that Japanese people protect and obey about their etiquette and manners. As I will pursue my study to Japan anytime soon, I realized that I need to start learning more and more about Japanese people's manner and habit, so that in the future, I can know beforehand that my action offends them or not as it's can affect my image as Malaysian and a foreigner. So, I learned about manners during eating, including the ways to use chopstick properly and meaning behind prayer that Japanese people said before and after meals. I also learned about manners when visiting Japanese peoples' houses because I think it is the most important knowledge that foreigners should know as we maybe have a chance to visit a Japanese friend's houses in the future. So, it is important to educate ourselves by now.

For me, "habits and manners" should be the most important thing to be aware of when living in another country. We live in society, not alone, so we need to learn their customs and manners in order to respect other people's countries.

Tabiat dan Adab

SITI NORAJMAL BINTI AZMI
Fakulti Ekonomi / Malaysia

Dua tahun yang lalu, saya tidak pernah terfikir bahawa kita perlu mengetahui tentang tabiat dan adab negara lain. Selain makan dengan sumpit, saya tidak tahu tentang adab dan tabiat orang Jepun sehinggalah saya memulakan kursus persediaan. Dalam kursus ini, saya belajar bahawa orang Jepun melindungi dan mematuhi etika dan adab mereka. Oleh kerana saya bakal melanjutkan pelajaran ke Jepun dalam masa terdekat, saya menyedari bahawa saya perlu mula belajar lebih banyak mengenai adab dan tabiat orang Jepun supaya pada masa akan datang, saya dapat mengetahui terlebih dahulu bahawa tindakan saya menyinggung perasaan mereka. Jadi, saya belajar tentang adab semasa makan dan adab ketika mengunjungi rumah orang Jepun untuk menyiapkan diri di Jepun.

Bagi saya, "tabiat dan adab" harus menjadi perkara terpenting yang perlu diberi perhatian semasa tinggal di negara lain. Kita hidup bermasyarakat, jadi kita perlu mempelajari adat dan adab mereka untuk menghormati negara orang lain.

田舎なの？

アダム バジル ビン アハマド カマル
経済学部 2年 マレーシア

私はマレーシアから来た留学生です。郊外にすんでいた私は田舎の暮らしにずっと憧れていました。郊外といってもマレーシアでは車があっちこっち走り回っていて本当に気に入りませんでした。確かに郊外よりも田舎の方が不便だとよく言われますが、田舎の平和な感じを一生一度でも味わいたいと思っていました。知っている人もいない場所で、自由に過ごしたいのです。

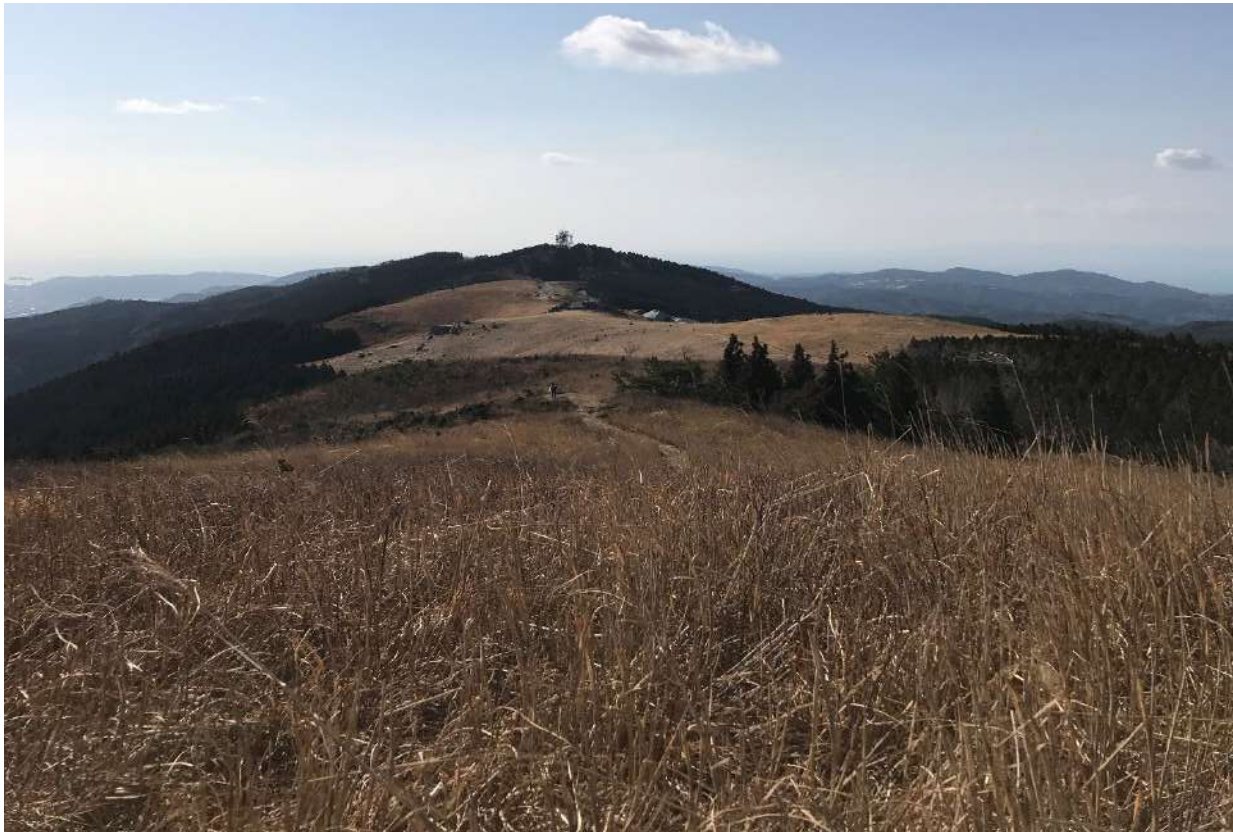
実は、和歌山に来たのは予想外のことでした。第3希望の大学に選ばれて、どれだけ惨めだったことか。最悪だと思っていました。滋賀に行ったらもっと面白いと思っていました。琵琶湖もあるし京都や奈良にも近いからです。和歌山といえば、みかんしか思いつきませんでした。そして、10月に来日して和歌山にきました。

和歌山について時、「涼しくて心を癒してくれそうな地域だ」と思いました。空港から乗った電車から地平線が見えました。この景色の美しさになんとか懐かしさを感じ、感動しました。



風が顔に当たり、目の前には広大な農地が広がっている。新居に向かう車の中で、「この和歌山は本当に地方なのだろうか」と思いました。マレーシアの日本語学校時代の先生が和歌山は地方だと言っていました。その言葉とは全く逆でした。高層ビルはありませんが、都市と呼んでもいいくらい十分な建物。和歌山のような地域は、他の国の地域と違って「田舎」とは言えないと思います。予想以上の施設の多さと、ショッピングモールの存在が都市であることの証明になっています。日本では和歌山は都市ではありませんが、マレーシアでは和歌山は十分小さな都市と言えます。

和歌山に来てからもうすぐ1年になります。日本にいても、なぜか自分の国のように感じます。和歌山の人々は、私が思っていた通り、とても愛想がよくて親切です。そのため、私は問題なく人々に溶け込むことができました、和歌山は田舎とされていますが、大阪に行かなくても高級な食べ物や服が手に入ります。ベストの商品ではありませんが、私はここ和歌山で提供されるものに満足しています。鉄道システムやバスシステムなどは、日本語と英語の両方で書かれていますので、とても使いやすく、外国人にも親切です。これらのおかげで和歌山にきて最初の2週間は、本当に助かりました。



和歌山での滞在期間が長くなるほど、和歌山に住んでいることを実感することができました。和歌山県が田舎だといってもマレーシアの田舎よりずっと便利だと思います。和歌山は自然に恵まれて社会に見守られています。写真のような景色はほかにはないと思いますので、このような景色を見られるのは本当にありがたいものです。

大阪にいますとおそらく見落としとしてしまいがちな自然の豊かさ、人との出会いが和歌山にはたくさんあり、そういった自然や出会いに感謝します。ここにはたくさんの未発見のところがまだあるので冒険の価値があります。唯一の難点は、これらの場所に行くには車で行かなければならないことです。しかし、それだけの価値はあります。

つまり、私が言いたいのは、思い通りにはいかなかったけれど想像以上に良いものを得られたということです。私にとって、和歌山にいることは幸せなことです。そしてまだ行ったことのない場所があるので、そこに行くのを楽しみにしています。

Is it really the countryside?

ADAM BAZIL BIN AHMAD KAMAL

Faculty of Economics / Malaysia

As someone who has always admired the life of the countryside, I was looking forward to getting into the University that I have chosen. Though I did not get into the University that I had chosen, I was still fortunate enough to get into Wakayama University. Since I have never heard of the Wakayama prefecture, I was both intrigued and reluctant because I did not know what kind of city Wakayama prefecture was going to be. But ever since I came to Wakayama, the experience was even better than I expected. No busy traffic lights like those in Kuala Lumpur, Malaysia. Just peace and quiet, just like I always wanted. Even though it is technically a countryside in the eyes of Japanese people, the fact that it is very resourceful and has a city like parts such as Wakayama city. It has shown that this is the true countryside that I have been wanting all along and I have finally have it in the grasp of my hand. And I am very grateful for the chance to be here.

Adakah ia betul-betul kampung?

ADAM BAZIL BIN AHMAD KAMAL

Fakulti Ekonomi / Malaysia

Saya sebagai orang yang telah duduk di kawasan pinggir bandar dan bandar seumur hidup saya, saya sangatlah berminat dengan kehidupan di kampung. Bukan bererti kampung yang berdekatan hutan itu, tetapi kampung yang berdekatan dengan sesebuah bandar tetapi tidak terlalu dalam di pendalaman. Jadi, apabila diberi peluang untuk memilih tempat Universiti, saya memilih kawasan yang serba kampung di Jepun. Cikgu Jepun saya pernah beritahu saya bahawa kampung Jepun lebih maju dari kampung di Malaysia. Jadi saya tidak risau akan kekurangan bekalan, hiburan dan sebagainya. Selama hampir setahun saya berada di Jepun, saya merasakan bahawa kampung Jepun and Malaysia ada banyak perasamaan dari segi perasaan ketenangan itu. Bezanya hanyalah tradisi dan budaya dan kemajuan sahaja. Ketika berada di Wakayama, saya pelajari bahawa kita sepatutnya bersyukur dengan perkara yang ada di depan mata dan bukan perkara yang tidak boleh dicapai.

理想と現実

タジバエワ ジャニヤ

日本語・日本文化研修留学生 カザフスタン

私は日本語・日本文化研修留学生として和歌山大学で勉強しています。日本語は大学に入る前も勉強してきました。今までの一番大きな夢は、日本に来て日本で生活することでした。しかし、それが現実になったら自分の中で何かが変わってしまったような気がします。

日本語に興味を持ち始めたのは6年前ぐらいです。その頃はアニメが人気で、私はすぐにアニメのファンになりました。いろいろなアニメを見ていて日本に対するイメージが浮かんできました。私にとって日本は、普通ではない、素晴らしい、まるでおとぎ話のような場所になりました。それで、いつの間にか日本語を勉強し始めたのです。日本語は私が話すロシア語と違うのでとても面白かったです。勉強するにつれて日本語への興味が次第に深まっていきました。まずはひらがな、カタカナ、そして少しずつ漢字を勉強しました。

ある日、日本語の教室を見つけて、そこに週2回通うようになりました。新しい人たちと出会って多くの友達ができ本当に幸せな時期でした。あっという間に3年もたってしまいました。この3年は日本に行きたいという気持ちがとても強かったのですが、お金がなくてなかなか日本へ行けませんでした。行きたくても行けないという状態の中で、日本に対する理想一町がきれいで、人も優しく、生活が楽だというような世界一がますます強まっていきました。当時は日本を実際に見ていないので、日本の生活のメリットやデメリットなどがわかっていませんでした。ですから、日本について良いイメージだけを持っていました。

日本語能力試験（JLPT）のレベルがN2になった時、自分が通っていた日本語教室で教師として日本語を教え始めました。生徒たちにとときどき「日本に行ったことがありますか。」と聞かれました。毎回「いいえ。」と答え、日本に行っていないことをさらに悲しく感じました。「このままもう行く機会がないのではないか」というような考えにとらわれていました。このように寂しく感じていたからこそ、「素晴らしい日本」という理想がもっと強くなっていったような気がします。

その当時、まだ進学していなかったのですが、両親に迫られ、大学に入学せざるを得ませんでした。学部を選ぶときに「日本語が上手だったら、大学から日本に留学できるよ。」と友達に言われました。運命を試してみようと思って、日本語学部を選びました。しかし、実はもう日本に対する興味が弱くなっていて、日本に行きたいという気持ちも薄まっていたので、入学試験で合格してもしなくても、私は気にしませんでした。意外なことに入学試験に合格しました。そして、大学2年生のとき、ついに日本へ留学できることになりました。

留学できるのがわかったとき、とても嬉しくなりました。「やった！」と言いながら涙が出そうになるくらい嬉しい気持ちでした。新型コロナウイルスのせいで準備が大変でしたが、2020年12月にようやく日本へ来ました。成田空港を歩いていて嬉しくてたまらなかった気持ちを今でもよく覚えています。

日本の生活については、一人暮らしが初めてのこともあって、最初の1ヶ月は少し辛かったです。日本にいること自体がとても嬉しかったです。また、和歌山の色々な所へ行くことができたり、たくさん写真を撮ったり、毎日の生活を楽しんで、日々の出来事にすごく感動しました。しかし、1ヶ月ぐらい過ぎてから、嬉しい気持ちや感動することが少なくなってきました。

これまで私の持っていた「おとぎ話のような日本」という理想が間違っていたと気づき現実が見え始めたのです。日本に来たばかりのわくわくという気持ちが落ち着き、本当の世界が見えてきました。本物の日本人に会ったり、話したり、愛されたり、だまされたりして、真実がわかり始めました。真実は「日本は普通の国」だということです。素晴らしい魔法の国ではなく、とても普通の国で、この地球にあるということがわかりました。

日本は他の国より優れている部分もダークの部分もあるので、カザフスタンやロシアと変わらない国だとわかりました。現実の日本と私の理想の日本が違うことにショックでしたが、それは誰のせいでもありません。これまで頑張ってきた日本語の勉強以外にも何かできることがあるのではないかと今は思うようになりました。自分の人生でこれから日本語とともにしたいことについて真剣に考えられるので、この留学は私にとって本当に役に立ったと思います。この留学のおかげで自分の目標と夢について深く考えられるようになり、精神的に成長できました。日本へ留学してよかったです。



Expectations and Reality

TAZHIBAYEVA ZHANIYA

Japanese Studies Student / Kazakhstan

I'm an international student in Wakayama University in Japan. I've been studying Japanese language and Japanese culture for a long time. The biggest reason of my interest in Japan was anime culture. As a result, a very strong and interesting impression of Japan in general began to form inside my mind. I was seeing Japan as something great, something miraculous and out of reach. I began to praise it. It became some sort of a sacred place for me. Going to Japan was the thing that I wished to happen the most.

But when I finally reached the destination, that impression began to slowly fall apart and crash into pieces. In this essay I tried to share my feelings about it and explain why reality sometimes differs from our expectations.

Ожидание и Реальность

Тажибаева Жания

Иностраннный студент, обучающийся японскому языку / Казахстан

Я иностраннный студент, изучающий японский язык и японскую культуру в Университете Вакаяма. Я довольно долгое время изучаю японский язык и культуру. Самая веская причина моего интереса к Японии в целом, это аниме. Благодаря ему, у меня уже давно сложилось очень странное представление о Японии. Япония казалась мне каким-то чудесным, сказочным местом, чем-то недостижимым и волшебным. Я восхваляла ее, она стала для меня чем-то святым. Единственным, чего я желала больше всего, долго время было просто поехать в Японию.

Однако, когда я наконец-то достигла своей цели, то самое представление о стране, те самые ожидания начали потихоньку распадаться на мелкие кусочки. Я встретила с горькой правдой. В этом сочинении я пытаюсь поделиться своими чувствами и мыслями на этот счет.

素敵どころ、和歌山への思い

エヴリリヤ

日本語・日本文化研修留学生 インドネシア

今回は、私にとっては初めての日本です。また、親元を離れて一人暮らしするのも初めてでした。

来日する前に、和歌山は田舎だとよく耳にしていましたが、東京駅から長時間電車に乗って、やっと和歌山駅に到着して周りの景色を見ると、想像通りだったことも、意外だったこともいくつかありました。

たしかに、自然が多くて建物も高くない田舎なのですが、周りの風景が大きな街といえる私の地元とほぼ同じで、意外だと思いました。その意外な反面、想像通りに和歌山は落ち着いた雰囲気があり、道もとても綺麗ですぐ気に入りました。

和歌山に来たのは2020年12月の中旬ごろでした。一人暮らししたことがない私は、慣れない環境で暮らしはじめることに心配もしたのですが、不慣れでマイペースな私でもすっかり馴染めるほど、和歌山はとても居心地のいいところです。



そういうふうに綺麗な風景も、落ち着いた田舎の感じもとても好きですが、和歌山で出会った人たちも皆優しく、なおさらここに来られたことを嬉しく思っています。大学関連で関わるスタッフ方や先生方も、コンビニやお店などの店員さんたちも、出かけるときに会った人たちも皆すごく優しく、お世話になったことがたくさんあります。日々少しずつ会話力が上がっていると感じつつも、未だにペラペラ話すことが難しいと思います。そんな私に、日本語が上手かどうかにも関わらず、聞きたいことがあるときや、何かで困っているときに優しく聞いてくれる心遣いと、丁寧に対応してくれたことには、感謝しかありません。やはり、周りの雰囲気も含めて、和歌山の人たちが素敵だからこそ、すっかり日本の生活に馴染めたのではないかと考えています。



ここに住んでから約7ヶ月が経ちました。私の滞在期間はたった10ヶ月で、長くてほんの短い期間だと思いますが、和歌山でまだ体験していないことや、素敵な出会いなどもまだまだあると思いますので、最後まで楽しめると思います。この作文を読んで、皆さんも同じように和歌山はとても素敵なおとこだと感じ取ってもらえたら、これ以上嬉しいことはありません。そして、これから和歌山に住む留学生さんに一言を伝えさせてもらえるとしたら、是非和歌山での滞在期間を存分に楽しんでほしいと思います。

今回は、私にとっては初めての日本ですが、はじめて暮らせたのが和歌山で、本当によかったと思います。

A Wonderful Place, Wakayama, and My Feelings

EVERYLLIYA

Japanese Studies Student / Indonesia

This is the first time I'm living away from my parents, in a place really far from home. Before coming here, I've heard that Wakayama is more of a 'countryside' rather than a city, but when I arrived and saw the sceneries around me for the first time, I was surprised to see that it's actually quite similar to my hometown more than I thought. Yet, as I had expected, Wakayama was a lot quieter and prettier with its natural view, and I've loved it since the first time I felt it.

I had a lot of worries since it was the first time I'm living alone in an environment I wasn't familiar with, but Wakayama is a really comfortable place to live in, even I who felt unfamiliar can learn to adapt myself quite well after spending a lot of time living here. Not only because of the pretty sceneries, but also because of the kind people I've met here. The people I've met in Wakayama University, and the people I met when I went outside, it's only thanks to them that I could come to find Wakayama as a comfortable place to live in.

While there's only 3 months left of my stay here, I'm sure I can enjoy my experience to the fullest until the time comes, since I'm living in a wonderful place like Wakayama. It would make me happy if everyone who reads this can also feel how great and beautiful Wakayama is.

Tempat nan Indah, Perasaanku pada Wakayama

EVERYLLIYA

Mahasiswa Studi Jepang / Indonesia

Ini adalah pertama kalinya saya tinggal jauh dari rumah, lepas dari kedua orang tua saya. Sebelum tiba di Jepang, saya sudah mendengar bahwa Wakayama lebih menyerupai 'kampung' ketimbang sebuah kota, namun ketika saya tiba disini dan melihat pemandangan sekitar untuk pertama kalinya, saya terkejut akan kemiripannya dengan kota tempat tinggal saya, yang bisa dibayangkan sebagai kota yang lumayan besar. Di saat yang sama, saya juga terkesan akan betapa tentram dan indahnya Wakayama, yang begitu kaya akan pemandangan alam, sama seperti apa yang saya bayangkan.

Pada awalnya, saya memiliki banyak sekali kekhawatiran, mengingat ini adalah pertama kalinya saya tinggal jauh sendirian. Namun setelah tinggal disini cukup lama, saya sadar bahwa Wakayama merupakan tempat yang amat sangat nyaman untuk ditinggali, bahkan seseorang yang tadinya tidak terbiasa seperti saya bisa merasa sangat nyaman untuk tinggal disini. Bukan karena pemandangannya saja, melainkan orang-orang Wakayama yang juga sangat ramah kepada saya.

Meskipun sisa waktu saya disini tinggal 3 bulan saja, saya yakin bahwa saya bisa menikmati waktu saya disini sampai program study abroad berakhir. Saya harap keindahan dari Wakayama bisa tersampaikan pada semua orang lewat karya tulis yang saya buat ini.

記憶に残る和歌山

マー ティエット フーン
日本語・日本文化研修留学生 ベトナム

2020年、文部科学省に和歌山大学への日研究生として選んでいただき、私にとってこれまでの人生のなかで一番素晴らしいことだと思います。日本へ来てから、驚くことがたくさんありました。日本へ来るまえに、ベトナムで日本語と日本文化を勉強していた時に、日本で働いている知り合いから「日本人は厳しいし、外国人と接触したくない」などと色々なことを聞かされました。今回来日することは私にとって、大きな挑戦になると思いました。やはり来日してから、いろいろな困ったことがありました。今でも、一番大変なことは日本語が通じないことです。成田空港の近くのホテルで待機していたとき、成田空港から和歌山へ移動したとき、バスに乗ったとき、市役所で書類を作成したとき、病気になったとき、ほかにもいろいろな場面で困ったことがありました。一人だったらできないことではありませんが、時間がかかったでしょうし、大変困ったでしょう。



日本へ来てから、周りの人からの助けをよくいただきました。空港に到着したときに、出口で迎えの人が待ってくださっていました。雨のなか、荷物を持ってくださったり、ホテルまで車で連れて行ってくださったりしました。また、ホテルから和歌山へ移動するときに、もう一人インドネシア人の友達も一緒でしたが、二人とも、はじめて電車に乗るので、どちらのホームの電車に乗ると和歌山へ行けるのかと迷いました。しかし、あるおじいさんは、私たちが、はじめて日本へ来た外国人だとわかったようで、案内してくださいました。そして、そのおじいさんも、和歌山へ行くとのことで、電車が一緒でした。

JR 和歌山駅に到着すると、私たちを待っていてくださった和歌山大学の方がいました。その方々に日用品を買いに連れて行っていただき、留学生用宿舎へ車で連れて行っていただきました。また、IEC というサークルの人たちに市役所へ書類を作成に連れて行ってもらいました。バスの乗り方、自動販売機の使い方を優しく説明してくれました。病気になったとき、通帳が使えなくて、お金が引き出せませんでした。それで、お金がないと食事もできなかったのが大変でした。でも、日本人の友達と一緒に和歌山大学から宿舎まで行っていただき、食品も買っていただきました。もし私だったら、困っている人を無視する

かもしれませんが、私を無視しなかった友達に感謝します。

このような素晴らしいことに会える機会は和歌山大学と先生方のお陰だと思います。ありがたい気持ちで一杯ですが、謝りたい気持ちも一杯です。残り少ない留学中に一生懸命勉強し、帰国しても、頑張って日本語の勉強を続けます。私にとって、和歌山は日本にある県の一つだけでなく、小さい日本の国みたいです。和歌山の方々は日本人の代表みたいです。和歌山へ来て、和歌山の人々と出会えて、日本と日本人が前より最も好きになってしまいました。



WAKAYAMA'S MEMORY BACK IN ME

MA TIET PHUONG

Japanese Studies Student / Vietnam

in 2020, the Ministry of education in Wakayama University, and it is the most wonderful thing in my life. Since I came to Japan, I had a good help from people around me. When I arrived at the airport, the person waiting for me was waiting at the exit. I took luggage in the rain and took me to the hotel by car. Moreover, when I moved from the hotel to Wakayama, I had another friend of Indonesia, but both of us got on the train for the first time, so I was wondering if I took a train on either platform to go to Wakayama. When we arrived at Wakayama Jr station, there was one of Wakayama University waiting for us.

I think that the opportunity to meet such wonderful things is thanks to Wakayama University and teachers. For me, Wakayama is not only one of the prefectures in Japan, but a small country in Japan. People in Wakayama seem to be representative of Japanese people. I came to Wakayama and met Wakayama people, and Japan and Japanese became the most favorite in the past.

KÝ ỨC CÒN LẠI TRONG TÔI VỀ WAKAYAMA

MÃ TIẾT PHƯƠNG

Sinh viên nghiên cứu Nhật Bản / Việt Nam

Năm 2020 được nhận học bổng từ chính phủ nhật bản, đến nhật du học với tư cách nghiên cứu sinh, đến hiện tại đó là điều tuyệt vời nhất đối với cuộc đời tôi. Sau khi đến nhật đã có rất nhiều điều khiến tôi phải bất ngờ.

Đến nhật tôi đã nhận được rất nhiều sự giúp đỡ từ mọi người xung quanh, khi vừa xuống sân bay narita thì đã có người đợi chúng tôi, họ xách hành lý giúp chúng tôi trong lúc trời mưa. Từ narita về wakayama chúng tôi được một bác dẫn đi tàu. Và khi vừa đến nhà ga wakayama JR thì đã có thầy cô của trường wakayama đợi chúng tôi từ lâu. Không chỉ vậy, lúc bệnh đồng thời tôi không rút được tiền vì sổ ngân hàng hư, tôi đã nhận được sự giúp đỡ từ người bạn người nhật, tôi cảm thấy biết ơn vì những lúc như thế, dù là có thể không bận tâm nhưng họ đã lựa chọn không phớt lờ.

Cơ hội này đây đều là nhờ vào trường wakayama và thầy cô tại trường. Tôi cảm thấy biết ơn cũng như xin lỗi. Không chỉ lúc ở nhật, dù trở về nước tôi nhất định cũng sẽ cố gắng học tiếng nhật. Được đến wakayama, được tiếp xúc với người dân wakayama đã khiến tôi yêu nước nhật và người dân nhật bản nhiều hơn.

私が見た東京と大阪以外の日本

サデギ ファテメ

日本語・日本文化研修留学生 イラン

私は日本に住んで約8か月になる。この間に日本で経験したことをお伝えさせていただく。まず最初に分かったことは、外国人は本当の「日本」をすべて知っているわけではないということである。つまり、東京と大阪で見る「日本」を「日本」だと思っているのだ。



私は旅行が好きで、日本の色々なところへ行った。たくさんの驚きがあった。都会以外の町では、お店はほぼ全部19時には閉まっている。夜はもちろんだが、日中も静かだ。四国を旅行した時、ある中高生たちと乗り合わせた。家から学校まで毎日2時間電車に乗っている。帰りも2時間かかる。これは家と家、家と学校が離れているため、通うのが大変なのだと分かった。

まず日本について言えることは次のことである。日本は、都会以外電車が少ない。交通費も高い。日本の家は海外と比べ小さい。伝統的な日本スタイルの家も段々少なくなっている。物価も高い。最も高いと思った食べ物は果物だ。特に、スイカやザクロの値段が高い。食べ物の値段はどこも同じわけではない。ドンキ・ホーテで100円のジュースは、大学で110円、徳島県では150円だ。町にはゴミ箱が少なく、家まで持ち帰らなければならないことがある。お菓子はあまり甘くないが料理は甘すぎる。地震が多い。津波が起こる可能性がある。ペットが多い。少子化が問題になっている。常に印鑑をもっておく必要がある。

つぎに日本人について言えることは次の事である。日本人は他人が何をしているのかに全く興味がない。当然ご近所さんのこともあまりご存じでない。猫カフェという猫と遊べるカフェなどもあるが、これは、動物たちがかわいそうである。服装は黒や茶系を好む人が多い。そのため、イランからもってきた黄色やピンク色の服を着ると目立ってしまい、まじまじ見られることが多い。何も信じていないのに初詣でに行く若者が段々増えている。



日本についてこんな風にお伝えしてきたが、日本にもいいところがたくさんある。家は小さいが一人暮らしにはちょうどいい。家電製品は安い。見たことのない家電もたくさん見た。今まで味わったことのない飲み物も飲んだ。道で安心して自転車で乗れるのが素晴らしい。学校は少ないが大きく、部活もたくさんあっていい。中古店も多く、お金に困っている人たちにちょうどいい。梅雨をはじめて経験した。少しホームシックになった気がするが、やはり雨は一番美しい。日本人は自然を大切にしている。電車やバスの中で電話をかけてはいけないというルールがあるので、静かに寝られる。



ここまで私が見た日本について色々書いてきたが、まとめるところである。私は一人のムスリム人の女の子として安心して一人暮らしをしている。奨学金のお陰で楽に生活している。旅行するのが趣味で、アルバイトをしてお金を稼いでいる。電車でどこにでも行ける。家のドアを閉めなくても悪いことは起こらないと確信できる。日本に留学して良かったと思う。日本人の中で特に先生や警察官の方が優しく、日本で困ったことはない。どこの国にもいいところと良くないところがある。私は日本にはいいところがたくさんあると思う。ぜひ一度皆さんにも留学してほしい。

What I experienced in Japan other than Tokyo and Osaka

FATEME SADEGHI

Japanese Studies Student / Iran

I have lived in Japan for about 8 months. I would like to tell you what I experienced in Japan during this time. The first thing I learned is that foreigners do not know all the true "Japan". I like traveling and went to various places in Japan. There were many surprises. For example, almost all shops are closed at 19:00. I met some junior and senior high school students. They take the train from home to school for 2 hours every day.

Transportation costs are high. Japanese houses are small. Food Prices are high. There are few trash cans in town, and you may have to take them home. The sweets are not very sweet, but the food is too sweet. There are many earthquakes. A tsunami may occur. There are many pets. The declining birthrate is a problem. The Japanese have no interest in what others are doing. However, on the other hand, there are many good points in Japan as well. The house is small but just right for living alone. Home appliances are cheap. It's great to be able to ride a bicycle on the road with peace of mind. There are many second-hand stores, so it's perfect for people who are in need of money.

So, I live alone with peace of mind as a Muslim girl. I'm glad I studied abroad in Japan. Among the Japanese, the teachers and police officers are especially kind, and I have never had any problems in Japan.

ژاپن از دید من به استثنای توکیو و اوزاکا

فاطمه صادقی

ایران / ژاپنی مطالعات دانشجویی

من حدود 8 ماه است که در ژاپن زندگی می‌کنم و می‌خواهم از تجربیاتم به شما بگویم. اولین چیزی که آموختم این است که خارجی‌ها "ژاپن" واقعی را نمی‌شناسند. به عبارتی تنها توکیو و اوزاکا را می‌شناسند. من مسافرت را دوست دارم و به مکان‌های مختلف ژاپن سفر کردم. تقریباً همه مغازه‌ها در ساعت 19:00 تعطیل هستند. دانش‌آموزان در شیکوکو برای رفت و برگشت از خانه به مدرسه روزانه چهار ساعت را در قطار سپری می‌کنند. هزینه حمل و نقل زیاد است. خوراکی‌ها به ویژه میوه گران است. زمین لرزه‌های زیادی وجود دارد. ممکن است سونامی رخ دهد. ژاپنی‌ها علاقه‌ای به آنچه دیگران انجام می‌دهند ندارند. با این حال، نقاط مثبتی نیز وجود دارد. خانه‌ها کوچک است اما برای زندگی تنهایی مناسب است. لوازم خانگی ارزان است. می‌توان با خیال راحت در جاده دوچرخه سواری کرد. فروشگاه‌های دست دوم زیادی وجود دارد. در نهایت من به عنوان یک دختر مسلمان تنها با آرامش خاطر در ژاپن زندگی می‌کنم. خوشحالم که در خارج از کشور در ژاپن تحصیل کردم. هر کشوری نقاط مثبت و منفی خود را دارد. و به نظرم ژاپن نقاط مثبت فراوانی دارد.

新型コロナウイルス下の和歌山

王 新慧
経済学部 2年 中国

今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学校の授業は自宅でのオンライン授業という形で行われました。対面式の授業に通うという経験ができなかったのは残念でしたが、同時に「和歌山」という市をよく知ることができました。

「和歌山」は日本の近畿地方に位置しています。日本最大の半島である「紀伊半島」の南西部に位置し、太平洋に面しており、東は三重県、奈良県、北東は大阪府と接しています。沿岸部に位置するため、気候は一年中温暖で雨が多いです。県庁所在地である和歌山市は、和歌山城の所在地でもあります。和歌山の名所である「和歌山城」は、現在の城は江戸時代の建物を復元したもので、丘の上の城跡は公園になっていて、城の上から和歌山市内を見渡すことができます。

和歌山県内は新型コロナウイルス感染症の拡大防止と緊急事態宣言の影響を大きく受けています。そのおかげで、和歌山を訪れる観光客は、地元の人を除いてほとんどいないということです。そのため、毎日人で賑わっていた和歌山は、平和で神秘的な雰囲気になっています。大学に入学して初めて和歌山に来たときから、和歌山城に行きたいと思っていました。しかし、勉強が忙しかったこともあり、和歌山城を訪れる機会はありませんでした。神秘的な和歌山城を初めて訪れることができたのは、夏休みに入ってからでした。新型コロナウイルス感染症に侵された和歌山城は、写真で見た風景よりも魅力的だと思います。長い歴史の流れの中で、何の影響も受けずに、静かに和歌山を守っているような気がします。和歌山の市民と同じように、新型コロナウイルス感染症の下で生活状態が変わっても文句を言わず、みんなが新型コロナウイルス感染症を防ぐためにできることをしているのです。

新型コロナウイルス感染症が始まってから1年が過ぎましたが、コロナ下の和歌山はまだとても静かで美しく、静かに浜辺に座っています。新型コロナウイルス感染症が早くなくなることを願って、この平和な和歌山市をもっと多くの観光客に知ってもらいたいと思います。



Wakayama under the COVID-19

WANG XINHUI

Faculty of Economics / China

This year, due to the COVID-19, all school classes were conducted in the form of online classes at home. Although it's a pity that I didn't get the experience of the opposite class, it also gave me the opportunity to get to know this city—Wakayama.

Wakayama is located in the southwest of Japan, facing the Pacific Ocean. Because it is a coastal area, the climate is warm and rainy all year round. Wakayama Castle is a famous scenic spot in Wakayama. The ruins of the castle on the top of the mountain have been turned into a park, and the view of Wakayama City can be seen from the top of the castle.

Due to the COVID-19, except for locals, almost no tourists come to Wakayama. This makes Wakayama Castle, which was bustling every day, become comfortable and mysterious. Wakayama Castle under the epidemic is more attractive than before. It's as if in the long history, unaffected by anything, quietly guarding Wakayama.

Although the epidemic has lasted for a whole year, Wakayama is still so quiet and beautiful under the epidemic, quietly located by the sea. With the hope that the epidemic will disappear as soon as possible, I hope that more tourists can come to learn about this city.

疫情下的和歌山

王 新慧

经济学部 / 中国

这一年由于疫情的原因，学校的课都是以在家上网课的形式进行的。这样虽然很可惜，没能获得到对面上课的经验，但是同时也给了我机会去好好了解这个城市——和歌山。

和歌山是位于日本地域中的近畿地方。地处日本最大的半岛“纪伊半岛”的西南面，面向太平洋，东部与东北部分别与三重县、奈良县以及大阪府接壤。由于是沿海地区，所以常年气候温暖多雨。和歌山市是同名的县府，是和歌山城的所在地。和歌山城是和歌山著名的景点，现在的城堡是江户时代的修复建筑，山顶上的城堡废墟已经变成了一个公园，从城堡顶部可以看到和歌山市的景色。

由于防止疫情的扩散，以及紧急事态宣言的发布。使得除了本地人，来和歌山旅游的游客几乎没有。这就让原本每天熙熙攘攘的和歌山城，变得安逸神秘。直到暑假，我才第一次登上了这神秘的和歌山城。疫情下的和歌山城，比起以前要更加有魅力。就好像在历史长流中，不受任何事物影响，安安静静的守护着和歌山。就如同和歌山的市民一样，不会在疫情的影响下抱怨生活改变原本的生活状态，而是大家都在做力所能及的努力来防疫疫情。

虽然疫情已经持续整整一年，但疫情下的和歌山依旧是那么安静美丽，静静的坐落在海边。抱着希望疫情赶快消失的心情，我希望能有更多的游客来了解这个城市。



2021 和歌山大学 留学生による第13回作文コンクール

発行日：2021年8月

発行者：和歌山大学 研究グローバル化推進機構 国際連携部門
〒640-8510 和歌山市栄谷 930 TEL:073-457-7524

冊子制作：松下 恵子(和歌山大学国際連携部門特任助教)

